

北九州都市圏構造を考える

～21の図表が示す「北九州の今後」とは？～

【要 旨】

1. 調査の目的

環境首都、技術のまち、新・基本構想の策定、ブランド戦略会議設置等北九州市からの発信情報が面白い。県都・福岡市へのスロー効果現象が九州各地で顕著になる中、北九州も人口100万人の維持が大きな課題となり、議会でも喫緊の関心事となった。本稿は、福岡と並ぶ九州でも一つの政令都市・北九州に関するデータを整理するとともに他政令指定都市圏とを比較、今後に向けた同市のさらなる飛躍に向けて幾つかのキーワードをとり纏めたものである。

2. 調査の概要

05年国勢調査ならびに工業・商業統計のデータを用い、全国256都市圏¹ベースで人口動態(含む高齢化進捗度)ならびに雇用者数の推移を、産業では工業、商業、サービス業関連データに絞り比較した。その中から浮かび上がる北九州都市圏の特徴をSWOT分析により整理した。

3. 北九州都市圏構造分析結果(SWOT分析結果より)

[S＝強み]

- 1)製造業の集積(人口当たりの工業付加価値、工業出荷額)、バランスの取れた就業者の年齢構成
- 2)医療／福祉水準の高さ
- 3)立地(アジアとの距離、「大都市化構想」への期待)

[W＝弱み]

- 1)人口の流出(特に働き盛り、Uターン世代)、サービス産業育成(特に観光)の遅れ、7区で二極分化
- 2)所謂「頭脳集積」の遅延
- 3)高齢化の進展(⇒“強み”に変えられるチャンス～例:財政面での負担ピークを早く経験)

[O＝チャンス]

- 1)学術研究都市(＝官民一体となり企業や学び舎を誘致)
- 2)トランス(歴史的経緯から「よそ者」に寛容)
- 3)観光資源／産業観光 への注力

[T＝脅威]

- 1)中国(特に多層化する自動車産業)
- 2)地域間競争の激化

4. 北九州都市圏が目指すべき方向性について～3つのキーワード～

金融危機が齎した円高・株安等周囲の大きな環境変化を克服、腰の強い経済構造にしていくなためにも、引き続き「環境・技術」への注力に加え、長引く人口の社会流出を防ぐため

- ①「クリエイティブ・クラス」(技術者から芸術家まで)をターゲットとした誘致活動
- ②集客・交流人口増加に向けた知恵だし⇒「訪れてみたいまち」の創造、「おもてなしの心」の醸成
- ③広域連携活動の推進⇒大都市化構想、「区」間連携など活動状況の対外発信

を進めていくことが肝要と考えている。

(お問い合わせ先)

㈱日本政策投資銀行九州支店

企画調査課 TEL 092-741-7737

以 上

¹「都市圏」＝国勢調査ベースで10%以上が通勤圏となっている都市を含め算出した人口。